

心臓疾患の権威・鈴木孝彦氏、心臓病治療の豊橋ハートセンター増築、13年10月にCCT会議3カ国同時開催

国際的な心臓病の権威である鈴木孝彦院長の(医)澄心会(愛知県豊橋市大山町五分取21-1, Tel.0532-37-3377)は、豊橋ハートセンター(同)を増築し、増床と機能の充実を図る。心臓病の治療、診断において、先導役を果たすため、必要なデータを得るRIの新規導入や近い将来の冠動脈の撮影装置の製品化を見越したMRI室も設ける。

豊橋ハートセンターは、鈴木孝彦院長が国立療養所豊橋東病院を辞め、平成11年5月に開院、鈴木院長は、臨床の一方で、日本インターベンション学会の副理事長を務め、さらに、心臓病の国際会議CCICのリーダーの1人でもある。ハートセンターでは、年間2600~2700のカテーテル手術のうち、2000の症例は日帰り手術、他の症例すべての患者の平均在院日数は5日と短い。バルーン、ロータブレード、ステント、DCAなら1泊2日。バイパス手術は、1日2件で、週4日を実施、大川育秀副院長が心臓を停止せずに手術する神技的なMID CABでは、入院が1週間ほどと、患者負担を大幅に軽減、回復時間を短縮している。このため、県下はもとより岐阜、三重、さらに全国から患者が集り、紹介が8割にのぼる。

増築は、S造り4階建て延べ4659㎡(敷地8554㎡)の規模で、1階に検査部門、2階に心臓カテーテル室2室、3階と4階に病床計54床(特別室6室含む)を設置、病床は、既存30床に加え、38床を増設する。カテーテル室は、既設2室と合わせ計4室となるが、増築の開院時か開院後のいずれかの時期か、性能が向上した新機種が登場次第、導入する考えである。RIを新規に2台導入するスペースを確保しており、現在、装置の価格交渉中で、1台ずつ順次導入するか、2台同時に導入するか検討

中である。また、アメリカで冠動脈撮影のMRIの開発が進んでおり、これが製品化するのを見越して、導入スペースも確保している。

増築の設計は不二設計(豊橋市)の担当で、12月中旬に施工者を決定、13年1月から着工、13年8月下旬の開院を目標にしている。

国際会議のCCICは、さる10月に豊橋市のホテル日航をメイン会場に開催、日本から2000人、海外から200人が出席した。13年度は規模を拡大、CCTとして、鈴木院長、滋賀県立成人病センターの玉井秀男循環器科主任部長、京都桂病院心臓血管センターの加藤修所長が中心となり、神戸国際会議場において13年10月10日から13日まで、韓国、ドイツの同時開催を予定している。会期中、豊橋ハートセンターの手術の実況を神戸会議場と韓国の会場で同時放映、時差があるドイツの会場とは記録した映像を相互送信する予定にしており、高度な手術スキルが関係者に広く公開される。

大田区の高野病院、来年3月増改築工事着工、14年10月末完成

高野病院(大田区東糀谷3-3-24, Tel.03-3741-0011, 高野博靖院長=昭和医大卒)では、増改築工事を計画している。着工は来年3月の予定で、施工者は未定。病院側では、年明け早々にも入札を行い施工者を決定したいとしており、平成14年10月末の完成を目指す。

同病院の診療科目は、内科、胃腸科、外科、整形、外科、脳外科、皮膚科、リハビリテーション科の7科目、病床数は80床を備えている。

建設地は、隣接地である東京都大田区東糀谷3-156-3他で、敷地面積は3074㎡。建設面積1634㎡のうち、増設部分は900㎡となる。6階建て既存建屋に1844㎡地上3階の建屋を増築し、延べ床面